

# 宇治市要保護児童対策地域協議会 令和4年度第2回代表者会議 議事要旨

<日 時> 令和5年3月1日(水) 15:00~16:30

<場 所> うじ安心館 3階ホール

<出席者> (委員:17人出席/24人中)

中田会長、奥西副会長、原委員、石原委員、迫委員、山花委員、井上委員、小西委員、岩崎委員、奥野委員、西田委員、今西委員、堀委員、佐々木委員、吉田委員、金久委員、栗田委員

(事務局)

福祉子ども部 福井福祉子ども部長、川崎子ども福祉課長、小栗子ども福祉課主幹、久保子ども福祉課子育て企画係長

(傍聴者) なし

<会議内容>

## 1 開会

- ・「宇治市要保護児童対策地域協議会の会議の公開に関する要項」に基づいて、公開で会議を進めていくことを確認。

## 2 新任委員紹介

- ・事務局より、所属団体の役職交代により新たに就任した委員を紹介。

## 3 議題

令和4年度宇治市児童虐待防止等の主な取り組みについて

令和4年度ヤングケアラー実態調査について

- ・事務局より、資料1「宇治市報告資料」に基づき、説明が行われた。

## 4 講演

### 「ヤングケアラーの現状と支援」

- ・京都府健康福祉部家庭支援課能勢参事及び京都府ヤングケアラー総合支援センター前田相談員より、資料2「京都府資料」に基づき、説明が行われた。

(※当初は、京都府ヤングケアラー総合支援センターチーフコーディネーター青木氏より説明予定であったが、青木氏が他公務により急遽欠席となったため、能勢氏及び前田氏が説明を行った)

### 【意見交換・質疑応答の概要】

○ヤングケアラーに関する具体的なケース事例はあるか。

→ダブルケアのヤングケアラーの事例がある。祖父母の介護は、ケアマネージャーと連携してショートステイなどの制度を利用することで介護の負担を軽減した。母親は、食事の準備

が苦手であったので、有償ボランティアの団体を紹介し家事の支援に繋げた。

○京都府へ相談されるケースとしては、児童生徒に係るものは少ないのか。

→府への相談としては、児童生徒のケースは少ない。但し、府は18歳以上の相談がある場合がある。児童生徒への相談は市の方が多いと思われる。

○ケースに介入し、制度利用などをする場合は子どもが手続きを行うのか。

→家族が行う。家族が必要性に合意して初めて支援が始まる。

## 5 その他報告事項

- ・次回代表者会議は、令和5年8月頃に開催予定

## 6 閉会